

ぴゅあ3館の講座情報満載！

# ぴゅあ

山梨県立男女共同参画推進センターは、男女共同参画社会の実現のため、男女共同参画に関する学習の機会と交流の場を提供しています。

県内にはぴゅあ総合、ぴゅあ峡南、ぴゅあ富士の3つの施設があります。愛称の「ぴゅあ」は、「男女共同参画社会をめざし、新鮮な感覚で、いきいきはつらつと行動する拠点」という意味です。



カジダンイクメン写真展より、  
「ねえ、パパ!ねえ、パパ!!ねえ、パパ、パパ〜♡」 甲府市・武藤さん

## § Contents

\* 地域活動レポート 劇団さくらっ子 \* 事業インフォメーション \* ぴゅあ講座レポート (ぴゅあ総合)

### 山梨県立男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

● ぴゅあ総合

〒400-0862

甲府市朝気 1-2-2

Tel. 055-235-4171 Fax. 055-235-1077

● ぴゅあ峡南

〒409-2305

南巨摩郡南部町内船 9353-2

Tel. 0556-64-4777 Fax. 0556-64-4700

● ぴゅあ富士

〒402-0052

都留市中央 3-9-3

Tel. 0554-45-1666 Fax. 0554-45-1663

● 山梨県女性の応援サイトでも講座情報を発信しています。→ <http://www.pref.yamanashi.jp/challenge/index.php>

ぴゅあ総合 HP → <http://www.yamanashi-bunka.or.jp/pwm/topicsogo.html>

ぴゅあ峡南 HP → <http://www.yamanashi-bunka.or.jp/pwm/topicskyonan.html>

ぴゅあ富士 HP → <http://www.yamanashi-bunka.or.jp/pwm/topicsfuji.html>

## 懸命にやることって、不細工なんですよ。 でも、だからこそ伝わることってありますよね。

劇団さくらっ子（平井ゆみさん・三科恵美子さん・山中淑子さん）

劇団さくらっ子は、主に男女共同参画に関するテーマを寸劇という形で発表し、鑑賞者がテーマについて考え、理解を深めることを目的として活動しているグループです。平成21年度には、山梨県男女共同参画団体賞を受賞されています。代表の平井ゆみさん、顧問の三科恵美子さん、脚本の山中淑子さんにお話をうかがいました。

— 劇団さくらっ子設立の経緯からお聞かせください。

**平井** 劇団さくらっ子は、甲府市女性市民会議（現在の甲府市男女共同参画推進委員会）の第6期で共に学び、活動した女性たちを中心に結成したグループです。メンバーの出入りもありましたが、現在は11名で活動しています。今年で活動11年目になります。

様々なテーマの寸劇を通して、男女共同参画社会を推進することを主な目的としています。演劇経験のない私たちが「劇団」と名乗っているのは、寸劇を通して男女共同参画社会実現をめざしたいという強い思いからです。

**山中** 女性市民会議のメンバーは公募と自治会推薦で40名前後が選ばれます。1期2年の任期でグループに分かれて活動します。私たちが女性市民会議で活動した当時は、男女共同参画と言う言葉も一般的ではなく、男女平等、あるいは女性の地位向上といった言葉が使われていたように思います。劇団さくらっ子の活動をスタートした平成16年前後から、次第に男女共同参画という言葉が聞かれるようになりました。

— このぴゅあという施設が総合女性センターと言う名前から現在の男女共同参画推進センターに変わったのも平成16年度です。では皆さんの活動が寸劇というスタイルになった経緯と現在の状況をお聞かせください。

**三科** 女性市民会議では2年間の活動のまとめとして各グループが発表をおこなうのですが、私たちのグループでは寸劇を発表することにしました。タイトルは『きっと世界は晴れるから』。メンバーの意見を基にして、その後も作品の脚本を担当している山中さんが中心となって書かれたものです。さくらっ子結成前ですが、私たちの第一作目と言ってもよい作品です。

毎年2月に甲府市総合市民会館で行われる「甲府市民フォーラム」（現在は甲府市男女共同参画推進フォーラム）で大勢の方々の前で発表したのですが、思いのほか好評で、正直に言うと、スポットライトを浴びて気を良くした面もありますね。

**平井** 現在の公演ラインナップは、男女共同参画に関するものが10作品、その他に環境問題に関する作品が3作品、その他の社会問題を取り上げたものが3作品あります。

**山中** もちろん男女共同参画に関する様々な課題について考えていこうとスタートしたので、男女共同参画が活動の中心テーマです。でも活動を続ける間に起きた社会問題も見逃すことはできません。平成19年に環境問題を、その後、「オレオレ詐欺」や「食品ロス」などの社会問題を取り上げ、作品創りをするようになりました。『未来との遭遇』という環境をテーマにした作品では、環境コンテスト・若宮賞をいただきました。10年を経て、「男女共同参画」「環境問題」「社会問題」が主要テーマに定まった感じがすね。

**平井** 作品数が充実すると、一年間の公演回数も増加しました。年平均12公演、最大20公演くらいおこなった年もあります。それぞれ家庭や仕事がありますので、日程調整が難しいこともあるのですが。

**三科** 結成から今まで、様々な場所で様々な方に作品を観ていただきました。平成19年と21年には、NWEC（国立女性教育会館）のフォーラムで全国の皆さんにご覧いただきましたし、立川市にある国立昭和記念公園・昭和天皇記念館や晴海トリトンスクエアでの環境展など、県外でも演じてきました。

**山中** お声掛けいただいた話は可能な限り受けようというのが、メンバー全員の一致した考えです。

寸劇そのものは30分程度ですが、時間が許せばグループワークの時間を設けて理解を深めていただく作業をおこなっています。観て考える、話し合っ理解を深めるという流れはとても大切なことだと思います。

各グループにさくらっ子のメンバーを配置し、ファシリテータ役を担ってもらいます。例えば、防災をテーマにしたものなら東日本震災等の経験もありますから課題についてイメージしやすくグループワークもスムーズに進むのですが、女性管理職やワークライフ・バランスなど複雑な問題を抱えたテーマでは、寸劇をご覧になった同士で議論が噛み合わなくなることがあります。よりよく理解していただくためメンバーがサポートしながら議論を深めます。

— 毎年、ぴゅあ総合フェスタでも発表いただいていますね。寸劇と言っても舞台道具や衣装の製作から音響機材の調達まで、メンバーの負担は経済的なこともふくめ、かなりのものだと思いますが。